

【天国への手紙

2018年11月4日放送分】

小さなおばさんへ

ラジオネーム：はな

子供の頃、仏間にあったモノクロ写真の

小さな女の子のことが気になって仕方がなかった。

セーラー服のようなワンピースを着た、クリクリお目の女の子。

その大きな目で、私はいつも「見られている」感じがして、

ちょっと怖かった。それが、あなた、「小さなおばさん」です。

祖父から、「はなちゃんのお父さんのお姉さん、つまりおばさんだよ。

小学校にあがる前に亡くなったんだ……」。

おじいちゃん言葉が詰まった。それで、父に聞いてみた。

「お父さんのお姉ちゃんはどんな人だったの?」と。

父は、「お父さんは小さくて覚えていないんだけど、スッぴえんとで、

『小町』と言われてたんだって」と教えてくれた。

うらやましいと思った。一方で、小さなおばさんのことが

かわいそうに思えてきた。存命ならば、どんな学校に行って、

どんな人と結婚して、どんな生活をしていたんだろう……

私は決めた。「小さなおばさんの分も幸せになろう」と。

以来、私が受験の時、家を出る時、仕事を始める時など、

小倉なおばさん」「ひまぐらきまぐらひんじ」とお願いしてね。都庁のようお願ひも多かったのよ、小倉なおばさん」

「ダメ出し」をわてしているおんな気になるときもあったけど、それもおばさんと会話しているおんなで心強かった。

残念ながら、私は小町にはなれなかった。

でも、おばさんの8倍も長い時間生きるじよができてる。

おばさんの分も幸せになれたかどうかはわからなけれど、

今もあなたは私の「小倉なおばさん」である、

「分身」であり、「中の神様」だよ。

「ダメ出し」も大歓迎。これから、私と一緒に生きていってね。

リクエスト曲

く きみの つ / Every Little Thing く